

■蓮如(兼寿・慧燈大師) 僧。本願寺第8世。本願寺教団の再興して大発展の基礎をつくった中興の英主。
れんによ
・ ・ ・ ・ ・ 1415 = 京都の大谷本願寺で、存如の母(一説に存如)に給仕した女性を母に、**本願寺第7世存如の子に生まれる。**

・ ・ ・ ・ ・ 1420 = 5歳：生母は本願寺を退出し、生国備後鞆ノ浦(一説に豊後望都)に帰ったという。

蓮如幼年期の本願寺は、仏光寺の隆盛に比し、不振の極にあった。

・ ・ ・ ・ ・ 1424 = **9歳**：

義教籤引將軍1428 = 13歳：
播磨国一揆・1429 = 14歳：**一宗再興の志をおこし、**

・ ・ ・ ・ ・ 1431 = 16歳：**青蓮院で得度し、中納言広橋兼郷の猶子となる。**

・ ・ ・ ・ ・ 1433 = **18歳**：
その後、本願寺と姻戚関係にあった興福寺大乘院経覚について修学した。父存如を補佐し門末へ下付するため、多くの聖教を書写した。現存最古のものは、永享6年(1434)5月12日の識語をもつ「浄土文類聚鈔」で、現在新潟県の光源寺に蔵される。

永享の乱始・1438 = 23歳：

嘉吉の乱・・・1441 = 26歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1442 = **27歳**：

成氏鎌倉公方1447 = 32歳：父存如とともに関東を訪ね、

足利義政將軍1449 = 34歳：同じく存如と北国を巡錫、

大和土一揆・1451 = **36歳**：

道灌江戸城始1457 = 42歳：***存如が死去し、本願寺の留主職に就いた。**

・ ・ ・ ・ ・ 1460 = **45歳**：**「正信偈大意」を著す。**
蓮如御文始・1461 = 46歳：***初めて「御文」を書いて、門徒を教化する。**

・ ・ ・ ・ ・ 1465 = 50歳：**延暦寺西塔の衆徒が大谷本願寺を破却。蓮如は祖像を奉じて近江の金森、堅田、大津を転々とし、祖像を大津南別所に置く。蓮如就職後の本願寺は多難で、とくに比叡山延暦寺の弾圧が激しく、**

応仁の乱始・1467 = 52歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1468 = 53歳：北国、東国の親鸞遺跡を訪ねた。
・ ・ ・ ・ ・ 1469 = **54歳**：

蓮如吉崎御坊1471 = 56歳：***京都を経て、越前吉崎に赴き、坊舎を建てた。これを吉崎御坊という。以後、「御文」を頻発。吉崎での布教は殷賑をきわめ、信者は奥羽からも集まった。**

足利義政隠居1473 = 58歳：**「正信偈」「三帖和讃」を開板する。**
・ ・ ・ ・ ・ 1475 = 60歳：**その威勢が守護富樫政親の危惧するところとなり、軋轢を生じた。加賀の門徒に10箇条の制誡を示す。吉崎を退去し、小浜、丹波、摂津を経て河内出口に居を占めた。**

応仁の乱終・1477 = 62歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1478 = **63歳**：**山科野村に坊舎の造営をはじめ、**

義政政権放棄1482 = 67歳：**完成。いわゆる山科本願寺である。**
狩野正信絵師1483 = 68歳：**「有馬道の記」を著す。**

山城国一揆・1485 = 70歳：
太田道灌暗殺1486 = 71歳：門徒に寺社本所の所領押領を誡める。「紀伊国紀行」を著す。
・ ・ ・ ・ ・ 1487 = **72歳**：

加賀一揆支配1488 = 73歳：**加賀の一向一揆がおこり、守護富樫政親を滅ぼすと、蓮如は成敗の御書を送って一揆をいさめた。**
銀閣寺完成・1489 = 74歳：**寺務を子の実如にゆずり、山科南殿に隠居。**
足利義政没・1490 = 75歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1496 = **81歳**：**大坂石山の地に石山御坊を建立し、妻子をともしない移住。はじめ同地を終焉の地と決めたが、**
蓮如没・・・1499 = 84歳：**急きょ山科に帰り、没した。**
生涯に子どもは13男14女。

「日本史を変えた人物200人」、「日本史重要人物101」、「この人どんな人」、「人物日本歴史館」、「日本の群像」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、「なにわ人物譜」、日本の古典名著、